

答え合わせ・解説

問1	答え 1 福岡県	福岡県の北九州工業地帯は、高度経済成長期に深刻な公害問題を抱えましたが、市民や企業の努力によって克服しました。その経験から、現在は資源のリサイクルを進める「エコタウン」の取り組みが世界的に評価されており、環境共生型の都市づくりが進められています。
問2	答え 1 石油危機後の不況をきっかけに、従来の沿岸部における重化学工業から、広い用地が確保しやすい内陸部や県東部を中心とした自動車工業へと主力産業が移行した。	福岡県では、官営八幡製鉄所の操業以来、北九州市の沿岸部を中心に鉄鋼業などの重化学工業が発展してきました。しかし、1970年代の石油危機による不況を境に、産業構造の転換が進みました。広大な用地や労働力を求めて、内陸部や県東部に自動車工場が進出したことで、加工組立型の工業が成長し、県全体の産業を支える新たな柱となりました。
問3	答え 1 製品が小型で軽量かつ高付加価値であるため、運賃コストよりもスピードを重視した航空輸送やトラック輸送が適しているから。	集積回路（IC）は、鉄鋼や石油化学などの製品と比べて非常に小型で軽く、製品あたりの価格が高い「高付加価値製品」です。そのため、船舶による大量輸送よりも、高速道路を利用した自動車輸送や、空港を利用した航空輸送によって、市場の需要に合わせて迅速に出荷することが重視されます。このように交通の利便性を求めて内陸部に工場が並ぶ様子から、九州はアメリカの事例になぞらえて「シリコンアイランド」と呼ばれます。
問4	答え 1 サツマイモ・豚・茶	鹿児島県は、シラス台地という水はけの良い火山灰層の土地が広いので、古くから乾燥に強いサツマイモの栽培が盛んです。また、広大な台地を利用して豚や肉用牛（黒牛）などの畜産、さらには広大な畑地での茶の栽培も全国トップクラスの規模を誇ります。統計で畑地の割合が極めて高いという特徴から鹿児島県を判断し、その土地利用に適した作物を選ぶことがポイントです。
問5	答え 1 志岐・対馬・五島列島などの離島を多く抱え、本土もリアス海岸のように屈曲に富んでいる。	面積が小さいにもかかわらず海岸線が長いということは、幾何学的に「形が複雑である（凸凹が多い）」、あるいは「孤立した陸地（島）が多数存在する」ことを意味します。長崎県はこの両方の条件を満たしており、特に島嶼（とうしょ）部の多さは海岸線距離を押し上げる最大の要因となっています。一方で、平地は少なく、海岸付近まで山地が迫る複雑な地形が形成されています。
問6	答え 1 サツマイモや茶の栽培、および豚や肉用牛の畜産	シラス台地は非常に水はけが良く、水分が地下に浸透しやすいので、水田よりも畑作に適しています。そのため、乾燥に強いサツマイモや茶の栽培が盛んになりました。また、広大な台地を利用して豚や肉用牛、鶏などの畜産業が発展し、鹿児島県は日本有数の畜産県となっています。
問7	答え 1 那覇市は行政や経済の中心地としての役割が強く、豊見城市是那覇市へ通う人々の住宅都市としての側面が強い。	昼夜間人口比率が100%を超える都市は、周辺地域から労働力や学生を吸収する「吸い出し」の力が強い都市中心部であることを示します。那覇市はその代表例です。対して、比率が100%を下回る豊見城市などは、夜間に眠る場所としての機能が高い「ベッドタウン」としての性格を反映しています。このような人口の移動は、交通網の発達や都市機能の集中、郊外の宅地開発といった地域構造の変化と密接に関連しています。